

# HAMAYOU

芦屋町ボランティア活動センター通信 115号

発行者 芦屋町ボランティア活動センター「リード」  
発行所 遠賀郡芦屋町中ノ浜 11-6 町民会館 2階  
TEL 093-221-1011  
発行日 令和元年 10月 1日

ボランティア活動センター

イベント予定

11月3日(日)

祭りあしや

「リードぼらんていあキッズ出店」

〈会場〉芦屋海浜公園駐車場

12月2日(月)〜21日(土)

クラフトマーケット(予定)

〈会場〉ボランティア活動センター

12月7日(土)

人権まつり

〈会場〉芦屋町町民会館



★リードぼらんていあキッズ募集!

受付は随時行っています。

※参加申し込み・詳細問い合わせは、ボランティア活動センターまでご連絡ください。

★リード学生ボランティア

メンバー募集

◇参加対象 芦屋町在住の高  
校生・大学生・専門学生。また  
は「リード学生ボランティア」  
が認める人  
◇活動期間 夏休みや春休み  
など長期休暇中及び土日など  
活動可能な時間

ボランティア活動センター

ワールドカフェ報告

9月20日(金)にボランティア活動センターで、令和元年度2回目のワールドカフェを開催しました。今年度のテーマは「令和の芦屋町」で、今回は「災害と防災について」意見交換を行いました。

地区での活動をお伺いすると、白浜町では、人と人とのつながりをみんなで確認しながら、「福祉マップ」を作り、隣組に入っていないながらも、近くの人が見守りを行う仕組みを実践しているそうです。この仕組みでは、見守られていることを知らない人もいるので、無理に中まで入りこまないで、外から見守る体制になっています。白浜町の取り組みから、地域でお互いをどれだけ見守れるかが大切なのだと言わなくてはなりません。

次に江川台区では、江川台は高台なので、浸水の心配は少ないのですが、がけ崩れの心配があります。がけ崩れの危険場所を確認し、避難体制を整えることに、地域で取り組みなければいけないと考えているそうです。

その他、一人暮らしの方から、「なるべく家に籠らず外出して、地区や同好会の活動に参加し、地域の人たちに元気な姿を見てもらうことにしています」という話がありました。これに対して、「3日顔を見ないと心配するので、その時に安否確認ができる」と、外出や活動への参加の必要性も話題になりました。

参加者の中に数名、昭和28年の大水害を経験された方がいらっしゃいました。

芦屋町は、浸水被害より、激流により建造物が崩され、流される被害が大きかったようです。土地が砂地なので濁流によってえぐられ、芦屋橋と祇園橋が崩れました。

当時、芦屋町に駐留していた進駐軍などの協力で、子どもたちはボートで水巻町あたりまで避難をしたそうです。

さらに何うと、大水害以前から、大君周辺では山からの水で浸水被害が多発していて、学校からの帰りに車やボートで送ってもらい、家の2階にはしごをかけてそこから出入りしていたこともあったそうです。

芦屋町は、袋小路で高台がない土地だから、現在は台風などの災害が少ないけれど、大丈夫という保証はないし、安全とは言い切れないという意見が出ました。心に深く刻んでおかなければいけない言葉だと思いました。



9月14日(土)、芦屋中学校のしゃべり場に参加させていただきました。

体育館にイスが円形に並べられ、内側に大人、外側に中学生が座り、向かい合った大人と中学生が1体で出された質問に対して、互いに1分間話をします。

中学生に対しての質問は、「夏休みの最後の日は何をしていたか」などの日常の話題から、尊敬する人や家族の事、将来の夢についてなどがありました。大人に対しては、夢をかなえるために必要な事とか、自分に影響を与えた人などについて質問があり、一番難しかったのは、「9月1日に何をしましたか」と問われ、正確に思い出せなかったことでした。

「大人と子どもの違いについて」の質問で、一人の男の子が「大人になるということは、人の話をきちんと聴けるようになること」とだと思えます」と答えてくれました。経済的なものや社会に対する責任ではなく、姿勢というか心の在り方の変化を、「大人と子どもの違い」とする答えが返ってきて、主義主張を我先に行う自分を、深く反省しました。

「大切なもの」についての質問では、その女の子は「自分に関わる全ての人」と答えました。具体的に誰ということではなく、自分と関わる人には「縁」があると思うから大切にしたいと話してくれました。同感です。私は「縁」を繋ぐのも切るのも自分自身、大切に繋いで行くかは、自分で決めて行動していくことだと伝えました。目を輝かせて聴いてくれました。

1人の中学生と話す時間は、お互いに1分ずつで計2分。この時間内で、少しでも彼らの力になれる話ができたらと今回は思いました。中学生ときちゃんと向き合って話すことで、学ぶことも多く、私も成長できました。ありがとうございました。



2名の高校生がボランティア活動センターに、学生ボランティアとして新規登録しました。ともに公務員志望です。

片方の女子は、春休みにボランティア活動センターに来て、公務員志望でそのためにボランティア活動をしたいのだと言いました。もう片方は男子で、ボランティア活動の動機を話す時にちよつと口ごもりました。彼は、公務員の受験のために活動するということが、不純な動機だと後ろめたさを感じていたのだと思います。動機は何でもいいのです。

以前、町民会館で遊んでいた中学生に、刈り取った木や草の片づけを頼んだことがあります。私は彼らに「ちよつとだけおばちゃんを助けて」と言って頼んだのですが、二つ返事で引き受けてくれました。彼らは黙々と1時間ほど手伝ってくれました。そのことがきっかけで、復興支援イベントのボランティアも快く引き受けて、友だちを30名も連れてきてくれたのです。彼らにはボランティア活動しようという意識より、おばちゃんが困っているから助けてやろうということの方が大きかったと思います。

「ボランティア活動」とは、意図的であつてもなくても、また自分のためでも誰かのためでもいいので、「必要だと感じたからやってみた」ということが大切なのです。

学生ボランティアに、新規で登録する学生も増えています。彼らは、きっと未来の芦屋町を支えてくれます。



★季節のボラセン★

ワールドカフェの今回のおやつは、「州浜(すはま)」でした。京都土産の定番です。温めた水あめとはちみつにきな粉を入れて練ったもので、冷蔵庫で冷やして固めます。簡単ですが以外に苦戦したようです。とても上品でおいしかったですよ。



★編集後記★

秋になりました。スポーツ・芸術・食欲の秋。まずは、町民体育祭、そしてあしや砂像展と文化祭と祭りあしや。鉢植えをたくさんいただいたので、寄せ植えにしてみました↑。イベントで販売したいと思っています。忙しい秋ですが、リードぼらんていあキッズは朝倉市に復興支援の研修に行く予定です。報告をお楽しみに。  
廣田

ボランティア活動センターよりお知らせ

読売新聞の「こちら移動支局」で芦屋町紹介の特集が9月17日から27日まで掲載されました。リードぼらんていあキッズも紹介されました。詳細は次号で！

★各種教室 (見学できます。詳細はお問い合わせ下さい)

- デジタル写真教室
  - ・ADPC(火曜日 13:00)
- 福祉支援教室
  - ・芦屋町手話の会 (月4回 水曜日 19:00)
  - ・ハーティネットあいあい視覚障がい者支援 (月2回 木曜日 13:00)
- 英会話教室
  - ・AEGC(木曜日 10:00)
- 手作り教室
  - ・すみれ会〈洋裁教室〉 (月曜日 10:00)
  - ・さくら会〈洋裁教室〉 (水曜日 10:00)
  - ・でんでんむし〈布絵本教室〉 (木曜日 10:00)

